

令和6年度 第3回千歳市公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 日時 令和6年10月16日(水) 13時30分から14時00分まで

2 場所 千歳市役所第2庁舎会議室

3 出席者

【委員】 委員長 馬場 直志
委員 小川 恭孝
委員 福村 景範
委員 宮崎 知宏
委員 千葉 崇晶

【公立大学法人公立千歳科学技術大学】

宮永理事長 井手副理事長 米澤事務局長 林事務局次長

【千歳市】 企画部 米澤次長

公立大学政策課 倉島課長、増田係長

4 傍聴者 なし

5 会議次第

・開会

・議題

(1) 公立大学法人公立千歳科学技術大学 第2期中期目標(案)について

(2) 今後のスケジュールについて

(3) その他

・閉会

6 会議の概要

(1) 結果概要

議題(1) 公立大学法人公立千歳科学技術大学 第2期中期目標(案)について

市で作成した公立大学法人公立千歳科学技術大学(以下「法人」という。)第2期中期目標(案)について、評価委員会において、審議を行った。

議題(2) 今後のスケジュールについて

事務局が今後の評価スケジュールを説明、質疑応答はなく了承された。

議題(3) その他

なし

(2) 議事概要

議題(1) 公立大学法人公立千歳科学技術大学 第2期中期目標(案)について

市による説明ののち、質疑応答を行った。質疑応答及び審議内容は次のとおり。

【委員A】 7(1)「財務に関する目標」の中の「科学研究費等助成事業等の競争的外部資金」について、「競争的」という表現が必要なのか、また、資金獲得のハードルの高さがどの程度のものなのか、お聞きしたい。

【事務局】 競争的外部資金とは、一般的に、客観的かつ厳正な審査を経て選択的に配分される学外の研究資金という意味であり、具体的には文部科学省の科学研究費助成事業を想定して記載している。

【法人】 ハードルの高さについては、科学研究費はレベルがいくつかあるが、若手向けの科学研究費で3割から4割は採択されるが、中堅以上の基盤Aという区分では2割以下である。これは、国内の全大学のうちの割合であり、かなり厳しい。

【委員B】 競争的外部資金という表現は、大学関係者の間では通常使われる言葉である。申請にあたっては、顔と名前が知られているかという点も重要で、これまでの研究成果などを示している。

【委員A】 大学間で競い合い獲得するものであることから、この表現になっていることを理解した。

【委員C】 防衛省に係る研究費の申請を上げたことはあるか。

【法人】 本学からの応募はない。数年前に、防衛関係の申請に対して委員会を設置し、学内に周知したが、問い合わせのみで委員会に諮ったものはなかった。

【委員C】 承知した。

【委員C】 経営面に関して、郵便料金も上がり、様々なところでインフレが起きているが、経営的に大丈夫か。また、運営費交付金が不足していないのか。

【事務局】 今後、大学法人から提出される中期計画の中に、収支計画や予算が示される。現在、大学で作成中だが、運営費交付金については、収支補填として市から交付しており、それを含め市と調整中である。来年1月の評価委員会で中期計画に対する意見を伺う予定である。

【委員C】 中期目標全体で、「公立千歳科学技術大学」と強調している箇所と、「大学」と記載している箇所が複数あり、科技大だけのことなのか、一般的な大学についてのことなのか、不明確であるため、どちらかを明確にした書き方にすべきではないか。

【事務局】 「前文」については、ご指摘のとおり、当時の理念ということで、そのまま引用した。その他については、科技大なのか、一般的な大学なのか、内容を踏まえて修正する。

【委員D】 4(1)「地域社会の人材育成に関する目標」の中で、リカレント教育とリスクリング教育を挙げており、今の時代に非常に重要なことである。大学として、全面的に取り組んでいただきたい。科技大は、情報と半導体という最先端の学問を扱うことから、履修科目を活かした、より具体的な教育を地域で展開していただきたい。中期目標か中期計画に、実施時期・期間を含め、もう少し具体的に書いていただきたい。

【法人】 リカレント教育は、eラーニング教材などを用いて、初等、中等教育から社会人まで幅広く行われている。リスクリング教育に関しては対面がいいと思うが、学び直して再就職するためのもので、大きな事業となる。書く内容にもよるが中期計画の方がよいと考える。

【委員D】 今後、科技大は半導体と情報の基地になり、そうした教育機会を通じて、千歳周辺で働きたいと考える人が出てくる可能性がある。そうした人たちのバックアップできる環境があると、地元としては非常にありがたい。

【法人】 人材育成のための拠点整備の時期等については、数年後には実現させたいと考えており、市と協議している。

【委員D】 学生及び卒業生への支援について、過去の経験から言うと、入社して大学の先輩がいることは非常に心強かったことから、先輩社員と新入社員の関係構築のアシストをしていただきたい。新入社員が頑張っていることで、採用した会社としても、また科技大から採用しようということにつながるため、そのようなサポートをお願いしたい。そうした取組で、科技大の知名度や評価も上がるのではないかと。

【法人】 今年 11 月に関東地区に就職した学生を対象に同窓会を初めて開催する予定である。学生の就職支援としては、毎年OB・OGが大学に来て、会社での活躍の様子などを話してもらう機会を設けている。また、中途採用で千歳の工場で働いている卒業生が多いことから、千歳工業クラブと連携して、そうした卒業生との交流を図る機会を設けたいと考えている。就職活動の結果を見ると、先輩が初めて就職した企業には2，3年入社が続き、数年間は繋がりがあるようである。

議題

(2) 今後のスケジュールについて

(3) その他

特になし